

汚染の概要及び対応等

- 川原町地内の更地において、土地所有者が自主的に実施した土壌汚染状況調査（土壌溶出量調査、土壌含有量調査及び土壌ガス調査）の結果、有害物質であるふっ素及び六価クロムが検出されました。

1 調査の概要

対象となる面積約 3,096 m²の敷地を 37 区画に区分し、各区画から採取した試料を分析

土壌溶出量調査：21 区画の土壌から基準を超過するふっ素を検出

濃度（最大）：8.1mg/l（土壌溶出量基準：0.8mg/l）

1 区画の土壌から基準を超過する六価クロムを検出

濃度（最大）：0.15mg/l（土壌溶出量基準：0.05mg/l）

土壌含有量調査：1 区画の土壌から基準を超過するふっ素を検出

濃度（最大）：4,700mg/kg（土壌含有量基準：4,000mg/kg）

土壌ガス調査：すべての区画で未検出

※土壌ガス調査は、土壌汚染状況調査において土壌汚染の有無を把握するために
行われる調査で、基準等はありません。

2 対応について

- ・ 市は周辺に飲用井戸がないことを確認しました。
- ・ 市は周辺の井戸の地下水調査を行い、汚染の有無や汚染の広がり把握します。

(参考)

物質	健康への影響	用途
ふっ素	骨へのふっ素沈着の発生率や骨折リスクが増えるといわれている。	アルミニウムの生産、レンガ、タイル、セラミックの生産等に使用される。
六価クロム	胃腸障害、出血性体質、けいれんを引き起こすといわれている。また、発ガン性のある物質といわれている。	クロム合金、金属クロム製造、クロムメッキに使用されている。